

第2回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 平成28年7月12日（火） 14:00～16:00

【場 所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 基本会議委員：石坂洋二委員、市村初仁委員、鈴木幹一委員、
須永久委員、西山紀子委員、横島庄治委員、
志立正嗣委員、島崎アイコ委員、貫名礼恵委員、
青木健太郎委員、内堀英希委員、遠藤寛士委員、
荻原確也委員、児玉大輔委員

内 容

1. 開 会

2. 会長あいさつ

- ・ 軽井沢町は、すでに投資から運用の時代に入っている。新しい軽井沢が何を目指すのか、行政だけでは決めかねる段階に達しているという認識を持ってほしい。
- ・ 軽井沢の納税者構成は、住民、別荘民、来外者・観光客の三者構成であり軽井沢独特のものである。納税者に対する行政責任という観点で考えると、この三者に対して同等の配慮をしながらも、何に眼目し序列を付けるかを考える必要がある。行政とイコールパートナーとして機能するため、この基本会議が設定されている。それぞれの立場から、相手の立場を理解したディスカッションができ、基本会議が成立すれば大変喜ばしい。

3. 議 事

(1) 軽井沢駅北口関係プロジェクトチーム（仮称）について

- ・ 北口開発再利用計画には、駅前のペDESTリアンデッキを降りてから国道との交差点の右側の街区において、鉄道会社所有地の再開発計画が具体化している。新軽井沢を北に進んだ街区も同様の所有者の開発計画が進んでいる。グランドデザインで想定している駅前の再利用計画と構想が合うかの検討と併せて、矢ヶ崎公園周辺の有効利用、景観修正、池の観光資源化の問題、鉄道記念館になっている旧軽井沢駅舎の有効活用についてなど、具体的計画が進んでいる問題も考えなくてはならない。また、駅用地内のアンテナショップ進出計画もあり、駅をエリアとして捉えた時に、軽井沢の玄関口の顔としての適正化を考える。国もコンパクトシティーの具体化構想の中で、駅前の重視を表題に挙げており、計画をどのように検証していくか、民間開発に対して、どこまで行政介入できるかが主な目的である。
- ・ プロジェクトチームの名称を、「軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチーム」とする。 (承認)
- ・ 第1回会議を平成28年7月20日（水）に開催する。
- ・ 構成員は、知識経験者2名、基本会議委員2名、その他関係団体1名の計5名で始め、行政側から関係課も参加する。

(2) 風土フォーラムに寄せられた意見等について

○要領の改正について

- ・ 現行のまちづくり提案に加えて、風土フォーラムからまちづくり提案を行うための要領改正について検討。
- ・ 「まちづくりに関する提案実施要領」の一部改正 (承認)

○寄せられた意見等（別表）について意見交換

A委員（番号1について）

風土フォーラムで議論した成功事例を発表することこそ、一番のP

Rになる。

B委員（番号5について）

コーヒーが飲める場があるからといって、人が集まるわけではない。人を集めるには①魅力的に得られるものがある、②大義名分、③参加者の満足度が高いことの3つの要素が必要である。人が集まり対話することに対して、きちんと向き合う仕掛けが必要。

C委員（番号3について）

軽井沢の風土への価値観の違い（町民・別荘民・観光客）があるが、そういう人たちが一緒に話し合う場が必要。泥鰯の話も含め、共通の体験をすることでコミュニケーションが広がると思う。

D委員（番号3について）

農業者は、今までJAに頼りきりだったが、生産者自身が徐々に発地市庭の将来についても考え始めている。平成30年に米の減反政策の補助金が打ち切りになるので、平成30年以降交流できる場を目指せばよい。泥鰯は、すぐに逃げてしまうので飼うことは難しいし、驚の餌になる。

E委員（番号3について）

発地一帯の葦が茂っていた場所を、田んぼに戻したら、一定量のお米が収穫でき、現在学校給食の8割を発地田んぼの米で賄っている。平成30年までは減反政策の関係で大々的な活用はできないが、準備を進めれば、発地エリアは色々な可能性を秘めている。

C委員（番号3について）

別荘所有者の友人は農業をすることを楽しみにしている。自分で田んぼを持つことは覚悟がいるが、共同で農作業が出来れば希望者はいらる。私自身もそういうコミュニティーがあれば参加したい。

F委員（全体について）

40代は仕組み作りについて、60代は景観についての意見が多い。もっと幅広い年代の人が訪れてくれたらよい。

G委員（番号2について）

ビジネスライセンスに対しては課題も多い。ライセンス制を取り入

れると過激な設定になる。条例で規制するのは難しいが、もう少し緩やかな事業者認定制度を検討している。

H委員（番号2について）

ビジネスライセンスは、町の動向を見守りながら、基本会議でどうするか考えていきたい。こういう提案が出ることは、風土フォーラムの目指す精神である。

A委員（番号2について）

ビジネスライセンスについては大賛成。推進していくべきだ。問題はアプローチの方法である。看板、のぼり旗のことを取り上げた際、規制をかける直接的アプローチではなく、統一フォーマットや、統一の色、形式などは認めるという間接的な運用法がよいのではないか。

横島会長

のぼり旗については、「軽井沢にふさわしい広告物推進委員会」において議論しているので、動向を見守りながら今後この提案についても考えていきたい。町長から、意見に対しての反応を示してほしいとの事だったので、皆さんから得られた意見の感触を纏めて執行部に提案したい。

(3) 2つ目のプロジェクトチームについて

- 風土フォーラムに寄せられた意見等について議論するも、2つ目のプロジェクトチームのテーマ設定には至らない。

(4) 風土フォーラム情報発信について

- ・ 行政からの情報発信ツールは、広報かるいざわ、ホームページ、メール配信サービスが主となっている。一人でも多くの方に風土フォーラムの一員として携わってもらうことなどを目的に、町でも初めての取り組みとなるSNS（フェイスブック）の運用の可能性について検討を進めている。行政としてSNSを運用する場合、ネット環境を取り巻くセキュリティの問題など、課題解決が必要となり、このような状況を理解いただいたうえで、アイデアやご提案などをお願いしたい。

○ 意見交換

F 委員

主にメールで希望者に議事録の開示をすることや、会議の様子を動画撮影して公開するなどについて検討するとよい。

C 委員

全国に、先進的なまちづくりの取り組みをアピールしていくには SNS の利用がよい。全年齢層の町民を対象とするなら、広報かるいざわ、区の間覧、ワークショップなどがよい。

I 委員

様々な年齢層を対象にするなら SNS より区の間覧の方が効果的である。

J 委員

紙媒体、電子媒体などの発信の手法を限定せず、多様なツールを活用するとよい。

K 委員

フェイスブックは利用した方がよい。フェイスブックは予期していない人にも知ってもらえる利点がある。コメント、シェアも使った方がよい。

L 委員

SNS は発信したことに対して反応がきて、それに答えなければ意味がない。また、公式なフェイスブックを持つのであれば、管理者はきちんとすべき。インターネットなどの情報発信に関しては可視化し、風土フォーラムへのアクセス数を把握することで、どのくらいの人たちに届いているのかが分かる。

また、区の間覧には有益な情報がたくさんあるが、別荘所有者には一切情報が入らない。同等の情報を周知する必要がある。

A 委員

セキュリティの議論をすると話が進まない。基本会議委員内でフェイスブックを利用すれば、情報交換ができて極めて合理的。今後、フェイスブックを活用するうえで、第 1 段階は基本会議委員間、第 2 段

階は町民に風土フォーラムを周知徹底するための手段、第3段階は災害情報周知を、防災無線と共用しながら行うなどが考えられる。まずは第1段階で、早急にチームを作り実施しながら問題点を探りたい。

C委員

広報かるいざわは紙面の情報発信では一番よい。情報の内容を多く丁寧にすれば興味を持ってもらえる。コラムも含め気軽に読んでもらえる記事がよい。

横島会長

広報かるいざわの広報体制、出版体制、配達体制の在り方はまだまだ工夫の余地がある。皆さんからの意見をいただき、その中に風土フォーラムの情報発信の機能を充実させる方法があるか考えたい。

情報発信以外の内容でも他に意見があれば伺いたい。

L委員

委員内のコミュニケーションと外への情報発信は纏めてやる必要はない。委員内のコミュニケーションとして、飲み会やフェイスブックで繋がることをやりたい。

C委員

2つ目のプロジェクトチーム設置への提案として、「(仮称) 軽井沢マインズ・オン! 参加型対話スタートプロジェクト」という、主体的に自分ごととしてまちづくりに関わる人を増やすことを目的として、子供から大人までを対象とした、軽井沢のまちづくりへの意識づくり・対話の場を作ることを提案する。

4. 事務連絡

事務局の業務について

5. 閉 会

(別表) 風土フォーラムに寄せられた意見等一覧

番号	内 容
1	いろいろなイベントに便乗して風土フォーラムの周知や、アンケートをとるといい。アンケート回答者にはプチプレゼントあげるなど。
2	否定せず実施させるがこちらの方針に従ってもらうという手法（ビジネスライセンス）による運用を導入してもらいたい。看板のデザインについても、デザイン審議会を置き、3回指導受けたら営業できなくなるというようなルールを設ければ、景観を守ることができる。
3	昔の浅草界限では、ドジョウといえば発地ドジョウが有名だった。発地休耕田の有効利用として、古代米を作り、周囲にドジョウを放つ運用をしてみれば一石二鳥の効果が見られると思っている。
4	追分の町並みを看板建築により修景し、宿場の雰囲気を出せるといい。修景に公費をかけると提案すれば参加する人が出てくると思う。
5	発地市庭内の施設に 200 円～300 円でコーヒーが飲める場所があれば、人が集まり話合う場所となる。
6	軽井沢のことを知らない建築家に発注して別荘を建てる人が増えている。結果として、自然対策要綱は守られていても、軽井沢のイメージに合わない建物になる。指導できるのは行政しかない。
7	中軽井沢図書館の休館日には駐車場を無料開放してもらいたい。
8	中軽井沢駅前の電柱の地中化を進めてほしい。
9	南地区のエリアは、アイスパーク、軽井沢発地市庭はファミリーが集う場所になるといい。
10	町は説明ができないものに金をかけすぎている。もっと人に金をかけるようにしたほうがいい。
11	観光案内所は、観光客などの苦情から出る町への不満など色々と情報をもっているのでもっと連携をとるといい。
12	歩道にもっとゆとりが欲しい。歩道幅が取れないのであれば、車道を狭め一方通行にしたらいいいのではないか。
13	マンションなどの建物を道路に対して平行に立てるから圧迫感が生じる。道路に対し斜に立て、斜にすることで生まれるデッドスペースに樹木を植えれば景観に配慮できる。
14	くっつけテラスができて地域の活性化が進んだというが、現状は観光案内所への問合せは減っていて、活性化していないと感じる。
15	風土フォーラムには福祉も含めたまちづくりのハブ組織となることを期待している。
16	ランドデザインをもっとかみ砕いたわかりやすい形で発信したほうがいい。